



連携室
だより

ろうさい

第16号

令和2年3月吉日
地域医療連携室



青森労災病院 理念 「やさしく、あたたかい病院」

- ・患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の医療を行います。
- ・医療の質の向上をめざします。
- ・勤労者医療・地域医療連携等における社会的責任を果たします。

放射線科からのお知らせ



高精度放射線治療スタート！

副院長・放射線治療科部長 真里谷 靖

令和2年元旦より、青森労災病院に副院長・放射線治療科部長として着任しました真里谷と申します。着任と同時に運用開始となった高精度放射線治療を中心に、がん放射線治療についてご紹介したいと思います。

おそらく世間一般的に、近親者や知人ががんに罹患、あるいはご自身ががん治療を受けることになるまで、放射線治療の存在を意識すること自体が殆ど無いのではないのでしょうか。欧米などに比べ日本では特にそうなのですが、がんの局所治療といえば直ぐに手術を考え、放射線治療という名前が最初から思い浮かぶ方は少ないはずです。しかし欧米では、放射線治療が全がん患者のほぼ60%に加えられており、外見・形態や機能の温存を重要視する彼らの考え方からすると、同等の治療成績が得られるがんの場合でも放射線治療には見向きもせず簡単に手術を選択してしまう日本の現状は不思議なものと映るようです。

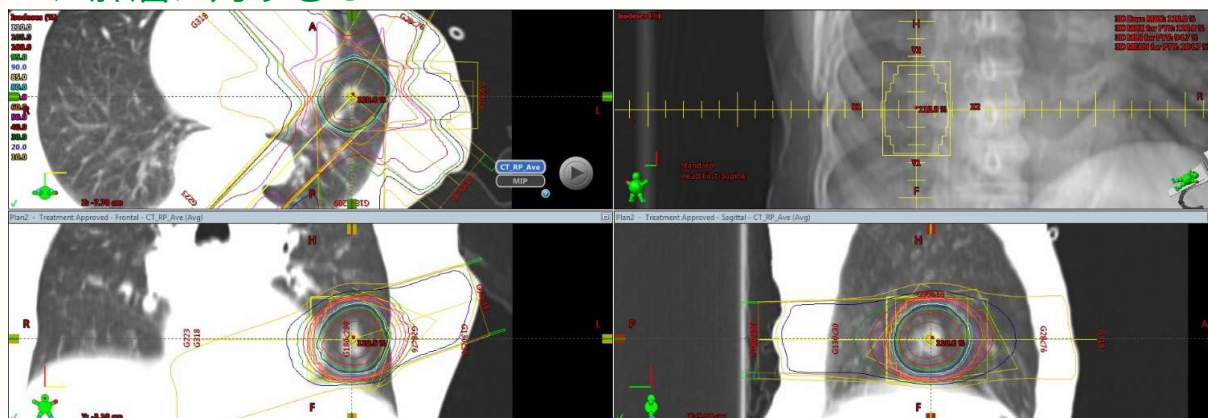
放射線治療専門医としましては、先ずこの放射線治療の低侵襲性（体への優しさ、負担の少なさ）、形態・機能温存性、さらに最近の技術的進歩がもたらした強力な抗がん効果、がん薬物療法や免疫療法との優れた併用効果などにもっと目を向けていただき、放射線治療が手術と並び立つがん局所治療法であることに早く気付いて下さることを切に望みます。また、放射線治療というと副作用を気にする方も多いと思いますが、放射線治療単独での副作用は通常軽度であり、患者さんやご家族が放射線治療の副作用と考えている症状の多くは、実は併用されるがん薬物療法や術後変化に起因することが多いのが現状です。



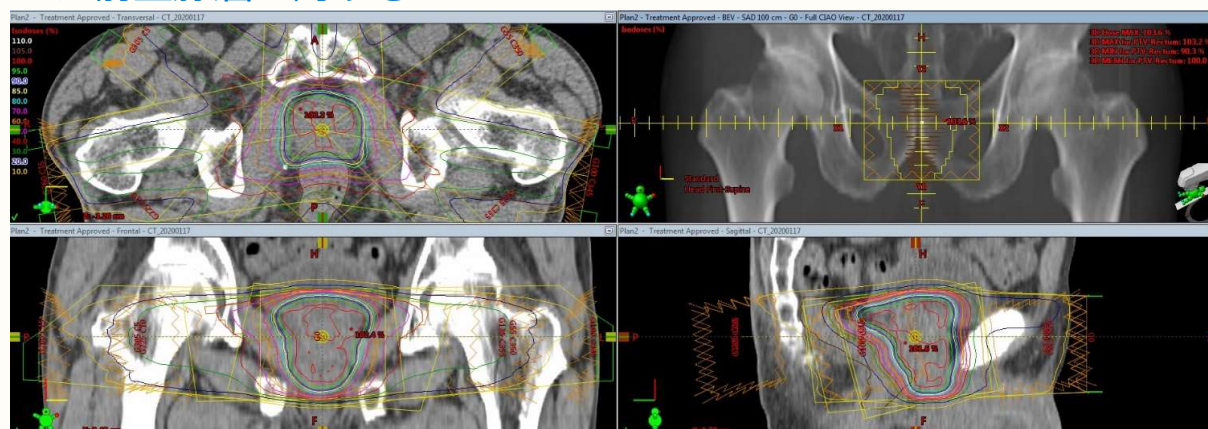
また、当院近在の患者さんは在宅での通院治療も可能で、体調に合わせた様々な照射スケジュール（線量分割といいます）の調整を行うことも可能です。これらは、高齢化が進む現代社会において、高齢の患者さんが、無理をせずにかん治療に立ち向かえることを意味しており、重要な武器のうち最たるものは放射線治療であるといえます。

当院には、平成27年から放射線治療装置自体は存在していたのですが、しばらく常勤の放射線治療医が不在であったため、装備・スタッフ面では高レベルの治療に対応可能であったにも関わらず、これまでは非常勤医が出来る範囲での限られた治療に留まっていました。しかし、本年元旦からの私の着任と同時に、高精度放射線治療と総称される最先端の治療技術の運用が可能となりました。これには、巷で“ピンポイント照射”と呼ばれている定位放射線治療（STI）/体幹部定位放射線治療（SBRT）、がんの形状に出来るだけ合致させて照射し周辺臓器の線量低減を図る強度変調放射線治療（IMRT）、画像情報を用いて放射線治療時の誤差をリアルタイム補正し正確に照射する技法である画像誘導放射線治療（IGRT）、ヒトの生理的運動である呼吸の影響(誤差)を出来るだけ小さくする呼吸運動対策を用いた胸腹部照射などが相当します。

◆ 肺癌に対する S B R T



◆ 前立腺癌に対する I M R T



このような、ライナックという高エネルギーX線照射装置をフルに活用した高精度の照射技術を使用できる陣容となり、現在、当院では上十三・八戸医療圏では最高レベルといっても過言ではない放射線治療を実施できるようになりました。しかし、ライナックで治療される患者さんの数は徐々に増加していますが、本格的なシステムとスタッフを備える体制になった当科としてはまだまだその能力を十分に発揮しているとは言い難く、地域の皆さん、医療関係者様により広く、深く放射線治療についてご理解いただく必要があることを痛感しております。

例えば、男性がその生涯で約半数罹患する前立腺癌のうち限局型のものには低侵襲で機能保持が可能なIMRTが適していますし、早期肺癌で体力的に手術に不安がある患者さんや基礎疾患を有する高齢の患者さんでは、手術に匹敵する治療成績を有するSBRTによって良好な腫瘍制御が期待できます。乳癌に対する乳房温存療法 of 局所治療は手術と術後放射線治療が組み合わされた形ではじめて標準治療となり、形態・機能温存が最も重要な領域である頭頸部のがん（喉頭、口腔、咽頭癌など）では放射線治療が中心的な役割を担います。

さらに進行したがんでも、がん薬物療法と併用した化学放射線療法による肺癌、食道癌などの治療における有用性、手術と組み合わされた放射線治療が乳癌や直腸癌に奏功することなども認められているところです。また、種々のがんで血行性におこる転移性脳腫瘍の治療の中心は実は手術ではなくSTIを含む放射線治療ですし、転移性骨腫瘍の治療でも疼痛緩和や骨折予防に放射線治療が非常に重要な役割を果たしています。最近では、放射線治療自体が患者さんのがん免疫を賦活する、あるいは免疫力と共同してがんを治療することも知られてきています。

もちろん、放射線治療でがんの全てに対峙できるなどという大それたことは考えていません。しかし放射線治療専門医としては、国内のがん治療全体の中で未だに過小評価されている放射線治療が持つ威力や人体への優しさに改めて目を向けて戴ければと存じます。その意味において、当院で高精度放射線治療が開始されたことは地域の皆様に広く知っていただきたいトピックであると考えています。

今年の初夏にはIMRTの進化形である回転型強度変調放射線治療（VMAT）と統合QAソリューション・システムの導入が決定しており、治療に伴って縮小していく腫瘍や患者さんの身体の変化にリアルタイムに即応する精細な放射線治療

（adaptive radiation therapyといいます）を目指していきます。当院の放射線治療のさらなる進歩にご期待頂きたいと思っています。





青森労災病院 FAX・電話による診療予約のご案内

当院では、紹介患者さんの待ち時間短縮を目的に、FAX・電話による診療予約を実施しております。

【専用FAXによる予約方法】

予約受付時間：午前8:30～午後9:15（ただし、状況によって対応します。）

予約FAX番号：0178-33-1690（地域医療連携室直通）

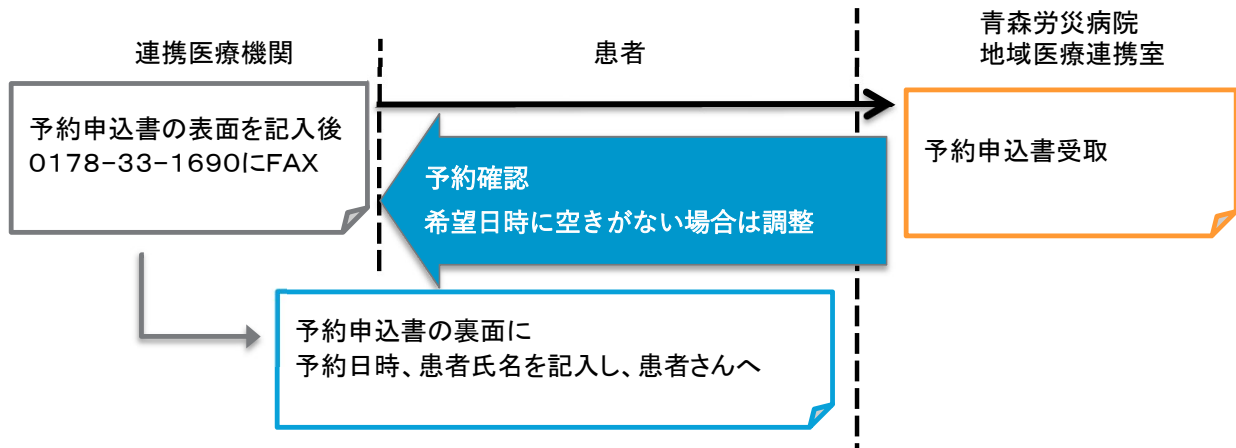
予約申込書：当院ホームページ≫各部門のご紹介≫地域医療連携室のページからダウンロード可能です。

郵送またはFAXでもお送りしますので、ご希望の際はご連絡ください。

※予約の申込につきましては、診療日前日までとなっております。

当日の予約については、お電話のみでの対応とさせていただきます。

◇利用手順

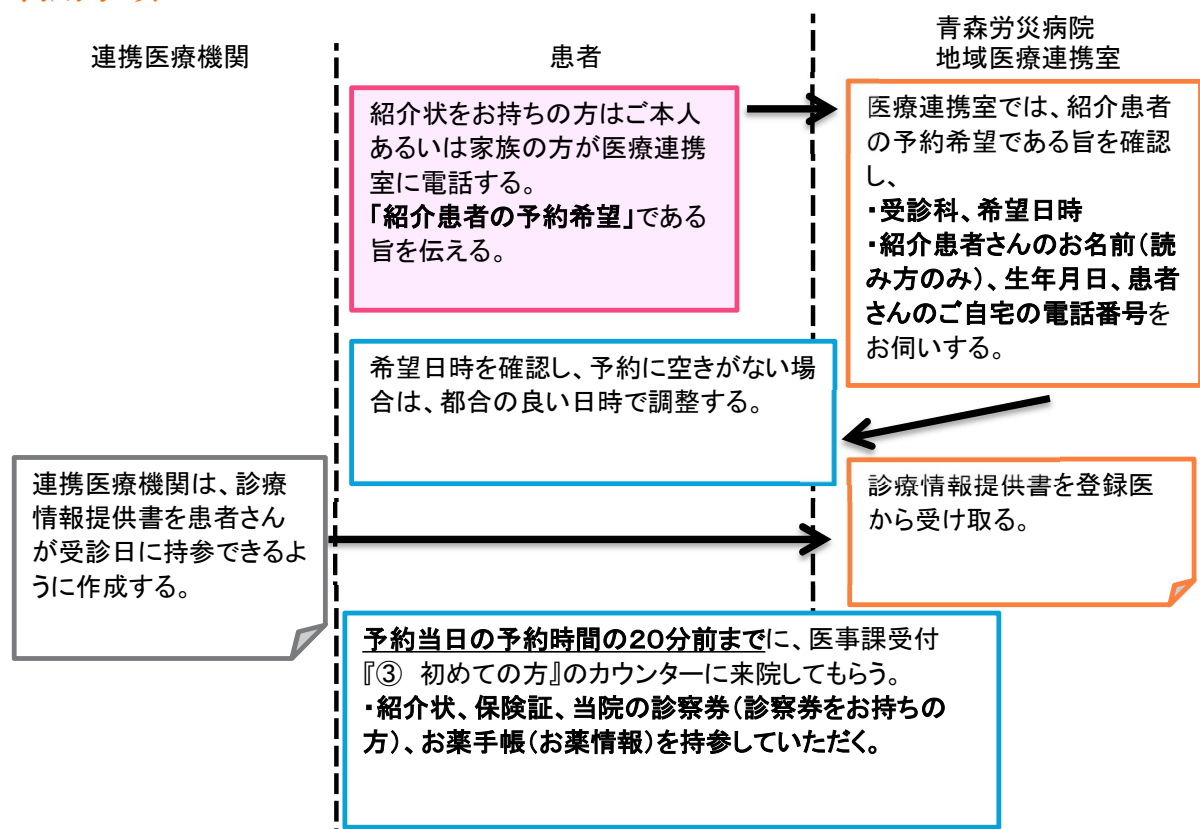


【電話による予約方法】

予約受付時間：平日午前8:30～午後5:00

予約電話番号：0178-33-1551 内線2515

◇利用手順



※FAX予約では、事前にカルテ登録を行います。電話予約の場合、当日のカルテ登録となりますので若干お時間を頂きます。